

2020年8月28日  
野村アセットマネジメント株式会社

## IJCAI2020 への当社社員の論文の採択について

今般、野村アセットマネジメント株式会社（以下「当社」）の社員が執筆した論文“RM-CVaR: Regularized Multiple  $\beta$ -CVaR Portfolio”（以下「本論文」）が、International Joint Conferences on Artificial Intelligence（国際人工知能会議、以下「IJCAI」）2020にて採択されましたことをお知らせします。

本論文では、金融工学の分野で提案された Conditional Value at Risk (CVaR)<sup>1</sup>というリスク計測指標と、機械学習の分野で提案されたスパース化<sup>2</sup>という手法を組み合わせ、効果的なリスク制御と取引コストの抑制を同時に実現する資産ポートフォリオの構築方法の確立について報告しています。

当社では今回の研究成果が IJCAI で採択されたことを励みに、人工知能分野をはじめとした様々な先端領域の技術を活用し、資産運用業の発展に結び付けることを目指してまいります。

なお IJCAI は、世界の人工知能分野における最も難関かつ権威ある国際会議の一つであり、毎年の開催においては大学だけでなく、著名なテクノロジー企業の研究者も集うなど、産業界でも大変注目されている会議です。

### 【ご参考】

IJCAI 2020に採択された、当社社員執筆の論文は以下のウェブサイトをご参照ください（英語のみ）。

<https://www.ijcai.org/Proceedings/2020/629>

---

<sup>1</sup> Conditional Value at Risk : 資産ポートフォリオの損失が、ある水準を超える場合の損失の平均値のこと。ある水準以内の最大損失額を表す Value at Risk よりも、保守的で数学的にも良い性質をもつリスク指標とされている。

<sup>2</sup> スパース化 : 不要な変数をゼロに近づける方法のこと。スパース化を通じ、資産ポートフォリオにおけるリスクの改善への寄与度が低い銘柄を除外することで、回転率の抑制や取引コストの低減が期待できる。